

平成23年度科学・技術関係予算についての意見募集結果
(24101：21世紀気候変動予測革新プログラム)

| ご意見の概要 | 件数 |
|------------------|-----|
| このまま推進すべき | 11件 |
| 改善・見直しをした上で推進すべき | 0件 |
| 推進すべきではない | 0件 |
| その他 | 0件 |
| 合計 | 11件 |

【主なご意見】

この施策はぜひ推進すべきです。

先日の公開シンポジウムに参加して改めて思ったことですが、地球温暖化とその予測は、我々働き盛りの世代の老後や、我々の子供の世代の生活環境にも直結した問題であり、是が非でも、国が責任を持って継続的に推進すべきではないでしょうか？（環境と子育てと年金に強い関心があります。）

低炭素社会の実現や温暖化対策に力を注ぐ必要があるのは言うまでもありませんが、5年、10年と、実際に地球温暖化が進行する中で、天気予報がそうであるように、最新の科学・技術による環境実況&予測情報を国が繰り返し作り続けること、その上で、温暖化対策の国内・外交政策を柔軟に修正していくことが望ましいと思います。（政権交代が何度起ころうとも、こうした施策は責任を持って着実に継続してほしい。）

最終年度であり、名目上予算額が減っていますが、追加の計算や結果の解析・発表のための職員の雇用と計算機の利用は確実に続けられると期待しています。この種の仕事の需要は、世界・国内ともに今後もありますので、これに続く事業の企画も望みます。現行プログラムの目標設定はIPCCへの貢献を重視しすぎたきらいがあります。次の企画の際は、世界人類の、あるいはとくに日本社会の持続可能性を高めるために、直接の貢献、画期的な基礎研究を通じての長期的貢献をあわせて、どのような気候研究が必要かを自分たちの頭で考えるところから練りなおすべきと思います。